

第 16 回 AAAP 大会参加報告

信州大学大学院農学研究科 山本祥也

この度、第 16 回 AAAP 大会プレゼンテーションアワードとして学会参加の助成をいただき、「Strong immunostimulatory activity of oligodeoxynucleotide motifs from lactic acid bacteria」というタイトルで口頭発表を行いましたので、その模様をご報告させていただきます。

【発表の概要】

昨今の機能性食品ブームから、発酵乳製品などに含まれる乳酸菌は“Probiotics（人体に良い影響を与える微生物）”として認識されてきました。乳酸菌を構成する成分には細胞壁やゲノム DNA が知られており、それらは感染症、炎症性疾患、ガンおよびアレルギーの予防や治療への機能が期待されています。私たちは、これまでに乳酸菌のゲノム DNA から様々な活性配列（CpG ODN）を同定してきました。

本大会では、乳業用乳酸菌 *Streptococcus thermophilus ATCC19258* の *lacZ* 遺伝子より同定した強力な免疫刺激特性を有する CpG ODN (MsST と呼ぶ) が、マウスの脾臓細胞において、インターロイキン (IL-) 33 の分泌を誘導することを発表しました。IL-33 は感染症や自己免疫疾患などの炎症性疾患において重要な役割を果たしていると考えられており、今後はこれら疾患治療薬のかわりとなる食品開発に寄与できるものと考えています。

【発表の状況】

家畜生産性や飼料成分の影響に関する題材が多い中で、免疫を中心とした題材で発表したこともあり、聴講者への説明に悪戦苦闘しました。しかし、私の研究とは異なる視点での質疑を受け、畜産や酪農分野での自身の研究の重要性を再確認できました。発表後には質問して下さった先生と個別討論し、有益なアドバイスを頂くことができ、今回の学会は私にとって非常に有意義な体験となりました。



【大会の感想】

各国独特の背景を掲げた研究が多く発表されており、私にとって新規性にあふれた学会でした。発表を通して英語コミュニケーションの課題が浮き彫りになりました。今後は英会話力に磨きをかけ、このような国際学会に積極的に参加していきたいと思えます。

最後に、本大会の参加にあたりプレゼンテーションアワードを授与して下さった日本畜産学会の関係者の皆様、大会中ご助力くださった諸先生、大会参加にあたり支えていただいた全ての方々に心より御礼申し上げます。

